

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制	記載者	A：よくできた B：だいたいできた C：不十分だった D：ほとんどできなかった	
今年度の重点目標（学校経営目標）		具体的取り組み計画			評価	成果と課題 自己評価	関係者評価
1	静岡県に唯一にんかされた狭域通信制高校として様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。	①基礎学力の確実な定着を図るため、各教科担当間のコミュニケーション量を増やし情報共有をした上でより分かりやすい授業を展開する。生徒・保護者面談を通し、主体的に学習に取り組めるように導く。 ②学校内はもとより校外での生活指導も継続して実践・強化し、基本的な社会性・モラル・社会通念上の規範意識の徹底を図る。 ③遠足・修学旅行・文化祭などの特別活動や校外スクーリングをより充実させ、多くの生徒が積極的に関わられるようにする。 ④進路選択において必要な基本的知識・技能を育成し、進路決定を自ら推進できるよう導く。	B	①教員間での情報交換・共有が充実し、授業の進め方・生徒対応がうまくいった。 ②校内外（近隣）の見回りも強化し対応したが、細かな生徒指導案件は数多くあった。 ③遠足・修学旅行の参加は例年以上に増えたが、増加した分の事前準備や共有事項にはまだまだ必要があると思った。 ④外部の企業や専門学校(大学)に委託し、昨年以上に進路情報・指導も徹底できた	A		
2	生徒一人一人の個性を伸ばし、より細やかな指導を行う。	①困難を有する多様な生徒（不登校傾向・問題行動・発達障害等）が積極的かつ十分な教育を受けられるように、学習に対する動機付けや学びの意欲を喚起できる教員の育成（スクールカウンセラーの活用） ②個別対応、部活動、キャリア教育、インターンシップなどの分野に十分に対応できる教員を育成する。専門の機関（企業）の協力を進める。（総合学習等） ③各校舎・教科単位での内部研修を実施し、キラリ高校の職員としての共通認識の上で、教職員の組織化を推進する。また外部研修を活用して多様な困難を有する生徒に対する支援強化を行い、各教職員の指導力・対応力を向上させる。 ④未履修・休学中の生徒・保護者へのアプローチを継続して行い、再履修・復学を促す活動をする。併せて学費の未入金分の通知や交渉を推進し未収金の額を増やさない取り組みを継続実施する。	A	①スクールカウンセラーの助言で生徒が前向きになり登校（レポート）もできた。 ②外部の方の話により普段聞くことのない話で生徒の反応（態度）が変わった。 ③授業・教科研修で他の教員の授業の様子が見られ、大変参考になりました。 ④教員間で協力し、何度か家庭訪問等を実施しながら復学させることができた	A		
3	技能連携教育施設（各スクーリング会場）のカリキュラム(コース)の改編に取り組み、通学タイプの充実を図る。	①より多くの生徒が通学タイプの全日スタイルを選択しやすいように、コース内容の再編を図り、魅力あふれる内容の転機を目指す。 ②①を推進するために、各スクーリング会場ごとにコース担当を決め、会議を行い、コース内容の検討・充実化を図る。 ③他会場との連携および意見交換を積極的に行い、より綿密に個々の生徒へ対応する。また昨年来の課題であった授業研修を本格化させる。	B	①適宜、コース体験も行い全日スタイルを検討する機会がとれた。 ②コース責任者を中心に授業の充実化を進め、半期ごと改善点をまとめた ③例年に比べ他会場とのコース別の情報共有・連携はとれたがさらに研究は必要である。	A		
4	吉田本校の整備・拡充	①定着しつつある、週3日の平日スクーリング（ウイークリースタイル）を継続して実施し、部活動、キャリアデザイン、インターンシップ、ボランティア等、様々な活動を通じ高校生活の充実を図る。 ②授業実施日以外の二日間で、就職支援活動・進学指導など先を見据えた活動を行う。	B	①スクーリング週には8割以上の生徒が継続して登校し、授業以外にも委員会や部活動など様々な活動を実施できた。 ②授業日以外での進路指導やレポート指導にはまだまだ課題が残ります。	A		
5	I C T教育及び、校務システムの整備事業	①インターネット授業配信を円滑にすすめ、さらにレポート(添削指導)のデジタル化への移行準備を推進する。 ②校務支援システムに関して、生徒増に対応すべくさらなる業務の効率化を図る為、システムの整備・拡充を図る。	C	①VODなどのインターネット配信授業の充実継続してあるが、レポート等のデジタル化に関してはタブレットの運用・購入方法などの課題が多くあります。 ②専属して推進できる職員・専門的知識のある職員の導入が課題である。新課程（観点別評価）により、入力作業などの時間が増えた。	B		